

きほく
鬼北町

議会だより

鬼北町多世代交流施設
チカナガぶらっとホーム



将来のための支出か
今だけの事業か

第9号
令和8年3月



▲議会HP

目次

- P 2 ~ 令和6年度決算内容
- P 4 ~ 町民インタビュー
〈鬼北町高校魅力化プロジェクト〉
- P 8 ~ 町政を問う
〈9月定例会・12月定例会〉
(抜粋・要約)
- P17 ~ 議会活動報告
- P20 編集後記ほか

全会計承認

9月
定例会

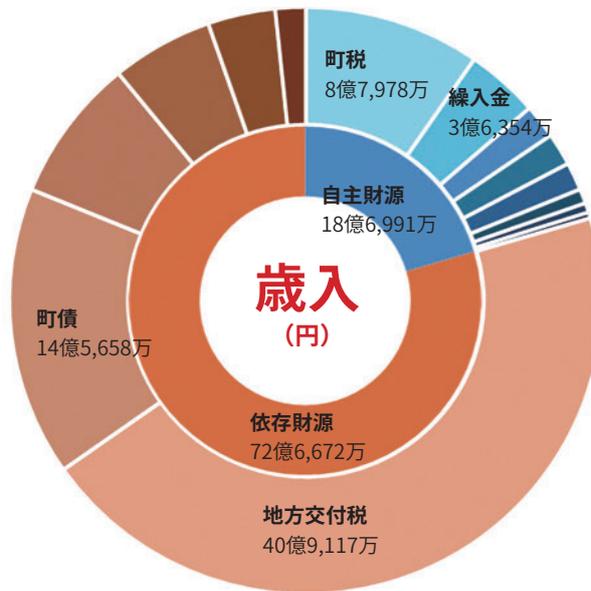
一般会計歳入

令和6年度の歳入決算額は91億3,663万円となり、前年度と比べて14.41%の減少となりました。また、自主財源比率は20.5%にとどまり、依存財源比率は79.5%となっています。

国においては減税に向けた動きも進む中、人口減少や高齢化による自主財源の減少とあわせ、今後の財政運営が懸念されます。

引き続き、より一層の緊迫感を持った財政運営が求められます。

91億3,663万円



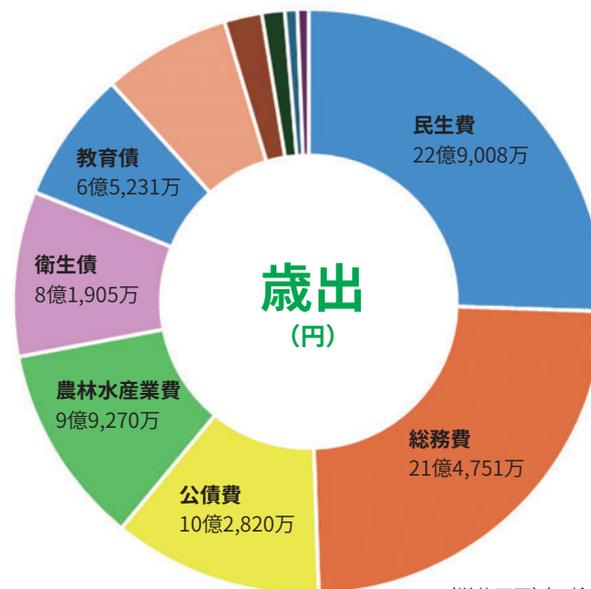
9月定例会は、9月12日から19日まで開催されました。令和6年度の全会計決算の認定や、令和7年度の補正予算を含む23議案を審議し、すべて原案どおり可決しました。一般質問では、7人の議員が町政の課題について質問しました。

一般会計歳出

令和6年度の歳出決算額は89億7,172万円で、前年度から14.65%減少しました。この結果、1億6,491万円の黒字となりました。一方、実質公債費比率は前年度より0.4ポイント増加し、7.4%となっています。

今後も大きな事業計画が見込まれることから、バランスの取れた財政運営が行われているか、引き続き注視していきます。

89億7,172万円



(単位万円)(四捨五入)

令和6年度 決算の

令和6年度 各会計歳入歳出総括表

(四捨五入)(千円単位調整)

会計名		歳入決算額	歳出決算額	差引残高	町債残高
一般会計		9,136,627	8,971,718	164,909	12,573,618
特別会計	用品調達特別会計	13,246	13,246	0	—
	国民健康保険特別会計	1,122,621	1,122,593	28	—
	国民健康保険診療所特別会計	134,812	134,783	29	—
	介護保険特別会計	1,617,078	1,541,476	75,602	—
	後期高齢者医療保険特別会計	207,272	200,740	6,532	—
公営企業	水道事業会計 収益的収支	415,778	397,236	18,542	—
	水道事業会計 資本的収支	593,695	812,141	△ 218,446	
	病院事業会計 収益的収支	969,698	966,766	2,932	—
	病院事業会計 資本的収支	151,444	202,732	△ 51,288	
	下水道事業会計 収益的収支	178,295	176,791	1,504	—
下水道事業会計 資本的収支	58,094	55,908	2,186		

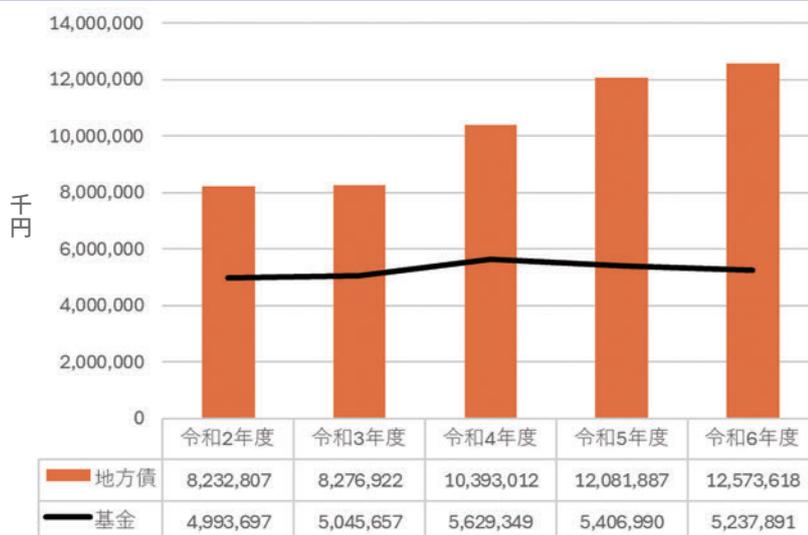
地方債の推移

町の借金にあたる地方債残高は年々増加しており、現在は125億7,362万円に達しています。

地方債の中には、過疎対策事業債や合併特例債など、返済額の一部が将来、地方交付税として国から補てんされる「有利な地方債」があります。ただし、こうした仕組みがあっても、地方債の返済が国によって全てまかなわれるわけではなく、町の負担は必ず残ります。

また、返済には利子も含まれるため、地方債が増えるほど町の財政負担は大きくなります。さらに、万が一に備える町の貯金である基金についても、令和4年度以降、減少傾向にあり、将来への備えが弱まりつつある点は懸念されます。借金が増える一方で貯金が減少している現状を踏まえ、今後の事業計画や財政運営には、これまで以上に慎重な判断が求められます。

地方債と基金



特集「高校魅力化プロジェクト ～将来のための支出か、今だけの事業か～」

多世代交流施設の整備費や運営費も、今年度決算に計上されています。これらの支出は、町の将来につながる投資となっているのか。次ページから、高校魅力化の取り組みを通じて検証します。

北宇和高校は、今どう変わっているのか

～高校魅力化プロジェクトの“現場”から～

本特集では、「高校魅力化プロジェクト」を一方向的に評価するのではなく、実際に高校寮や公営塾を利用してきた高校生、そして学校現場の声を通して、その実像を紹介します。成果だけでなく、取り組みの中で見えてきた課題や、町民の皆さんが感じている不安にも目を向け、現状を多角的に考えるきっかけとすることを目的としています。

北宇和高校は、少子化の進行により、生徒数が定員の約7割となっています。学校の将来のあり方について、町民の皆さんの間でも関心が高まってきています。鬼北町では、こうした状況を踏まえ、「高校魅力化プロジェクト」として、学びや生活環境の充実に取り組んできました。一方で、多世代交流施設の活用のあり方や、高校寮の整備の必要性、高校の特色や進路面について、さまざまな受け止めがあることも事実です。町では現在、公営塾による学習・進路支援、地域と関わる学びの導入、高校寮の整備・運営など、6つのチャレンジを柱に取組を進めています。2023年には高校寮が整備され、2025年10月には多世代交流施設「チカナガぶらっとホーム」が完成しました。県内外から高校生が利用し、地域との新たな交流の場となりつつあります。

◎鬼北町のチャレンジ目標

～生徒が行きたい！保護者が行かせたい！
と思う魅力的な高校へ～

◎取組施策(KPI目標)

- ①公営塾の充実
- ②独自カリキュラムの導入
- ③高校寮の整備と運営の充実
- ④プロフェッショナルとの交流
- ⑤課外活動の充実
- ⑥チャレンジのPR

KPI目標とは、最終目標（KGI）達成に向けた進捗を測るための具体的な中間指標。



◎北宇和高校の現状

【志願者数】令和5年度：70人、令和6年度：87人、令和7年度：104人（2年連続増）

【入寮生】令和5年度：7人、令和6年度：7人、令和7年度：13人、令和8年度：13人

寮生活が育てた「自分で生きる力」



鬼北町が進める「高校魅力化プロジェクト」の一環として整備・運営されている高校寮。県外からも生徒を受け入れ、地域と関わりながら成長できる環境づくりが進められています。今回は実際に寮で生活する生徒2人に、鬼北町での暮らしや自身の変化について話を聞きました。



長尾議員

【Q】 鬼北町に来る前と後で、印象は変わりましたか。



岡野君

【A】 来る前は、正直『かなり田舎なのかな』という印象でした。実際に生活してみると、都会ほど便利ではありませんが、大きな不便は感じませんでした。宇和島まで出れば買い物もできますし、暮らしにくさはありませんでした。



原田さん

【A】 見学の時は町をほとんど見る時間がなく不安でしたが、住んでみると想像よりずっと快適でした。人が優しく、挨拶を自然に交わす距離感がとてもいいと感じました。



入田議員

【Q】 寮生活で一番成長したと感じる点は。



岡野君

【A】 生活習慣です。中学の頃は朝起きるのが苦手でしたが、部活と寮生活で規則正しい生活が身につきました。自分のことを自分で管理できるようになったのは大きな変化です。



原田さん

【A】 人間関係の面です。県外から来た仲間と生活する中で、価値観の違いを知り、どう伝えればいいのかを考えるようになりました。



長尾議員

【Q】 印象に残っている思い出はありますか。



岡野君

【A】 雪が降った日に、寮生や友達と一緒に遊んだことです。地元ではあまり経験できなかったもので、特別な思い出です。



原田さん

【A】 地域のイベントや、日常の中で地域の方と話す時間です。知らない人でも声をかけてくれる温かさが印象に残っています。



入田議員

【Q】 町民の皆さんへ一言お願いします。



岡野君

【A】 多くの方に支えられ、ここでしかできない経験ができました。



原田さん

【A】 鬼北町で過ごした時間は、これからも大切な財産です。



編集後記

寮生活を通じて、自立心や人との関わり方を学び、大きく成長した2人。高校魅力化プロジェクトは、生徒の可能性を広げると同時に、地域との新たなつながりを生み出しています。

「勉強だけじゃない」 安心して頼れる場所が進路につながった



高校魅力化プロジェクトの柱の一つが、公営塾の充実です。公営塾を3年間利用し、2025年度に愛媛県職員としての進路を決めた北宇和高校3年生に話を聞きました。



長尾議員

[Q] 公営塾に通う前と後で、変化を感じたことはありますか。



荻原さん

[A] 中学生の頃は、正直あまり勉強に前向きではありませんでした。でも『公営塾がある』という点が高校選択の決め手になりました。通い始めてからは、人の目があることで集中できるようになりました。



長尾議員

[Q] 勉強面以外で印象に残っていることはありますか。



荻原さん

[A] 先生がギターを弾いているのを見て、自分も興味を持ち、少し弾けるようになりました。勉強だけでなく、新しいことに挑戦できる雰囲気があります。



長尾議員

[Q] 学年を超えた交流や、地域との関わりはありましたか。



荻原さん

[A] 1・2年生とも自然に話すようになり、学校生活やテストの話をしています。地域の方と一緒にイベントでクラフトコーラづくりを手伝ったことも印象に残っています。



長尾議員

[Q] 進路実現に、公営塾はどのように役立ちましたか。



荻原さん

[A] 公務員試験では、1・2年生の時に教えてもらった内容がそのまま役立ちました。特に面接が苦手でしたが、考え方や伝え方を一緒に整理してもらえたことで、不安を乗り越えられました。



長尾議員

[Q] 後輩へメッセージを。



荻原さん

[A] 公営塾は『勉強しなきゃいけない場所』ではなく、『困ったら頼れる場所』です。

編集
後記

公営塾は、学力向上だけでなく、生徒一人ひとりの不安に寄り添い、進路実現を支える拠点となっています。言葉からは、「学ぶ場」であると同時に「安心できる居場所」としての役割が伝わってきました。

特集 ～高校魅力化プロジェクトの“現場”から～

学校改革と地域連携でつくる、選ばれる高校

【Q】 北宇和高校の現状と、ここ数年の変化について教えてください。



入田議員

【A】 本校は創立 87 年を迎えます。一時は入学者数が減少し、厳しい状況もありましたが、全国募集や高校魅力化の取組、町からの支援により志願者数は回復しています。令和 5 年度 70 人、6 年度 87 人、7 年度は 104 人と増加しており、学校だけでなく町や地域が一体となって取り組んできた成果だと感じています。



平野校長

【Q】 北宇和高校ならではの強みは何でしょうか。



長尾議員

【A】 県内唯一の馬術部やレスリング部など、特色ある部活動が全国レベルで活動しています。また、寮や公営塾、多世代交流施設など、学習と生活の両面を支える環境が整っている点も大きな魅力です。地域とともに学校をつくる意識が、生徒や教職員の中に根付いてきました。



平野校長

【Q】 寮生や公営塾を利用する生徒の変化をどう感じていますか。



入田議員

【A】 寮では全国から集まった生徒が共に生活し、多様な価値観に触れています。公営塾は学習支援に加え、安心して過ごせる居場所として機能しており、生徒の表情が明るくなり、主体的に行動する姿が増えたと感じています。



平野校長

【Q】 地域との連携について教えてください。



長尾議員

【A】 小学校との連携学習や地域イベントへの参加、高校生によるツアーガイドなど、地域に開かれた取組を進めています。地域全体で子どもを育てる好循環が生まれつつあります。



平野校長

【Q】 今後に向けた課題と展望をお願いします。



入田議員

【A】 将来的な学級減への対応と、学校の魅力化と特色化をさらに高める取組が課題です。給食導入の検討や、地域課題解決に向けた探究活動を充実させていきたいと考えています。



平野校長

【Q】 町民の皆さんへ一言お願いします。



長尾議員

【A】 高校の存続は、町への経済波及効果を生み、地域の活力や公共交通網を支える力となります。地域人材の育成と持続可能な町づくりのため、温かいご支援をお願いします。



平野校長

編集後記

高校魅力化プロジェクトは、すべての不安を解消するものではありません。生徒数減少という現実は今後も続きます。それでも、寮や公営塾で過ごした高校生たちが、「自立し、社会へ踏み出す力」を身につけていることも事実です。過去に議会で承認された事業について、成果と課題を町民に伝え続けることは、現在の議員の責任です。本記事が、賛否を超え、町の将来を考える材料となることを願っています。

身体障害者用駐車場



おおかわ まさのぶ
大川 正展

問 公共施設の障害者用駐車場に屋根を設けることができないか。

答 バリアフリー新法では、障害者用駐車スペースへの屋根の設置は義務基準には含まれていないが、悪天候時における移動の円滑化に貢献することから前向きに検討していきたい。役場駐車場は、荷物搬入や健康診断に係る大型車両の利用もあることから、限られたスペースの中で安全を確保しながら、どのような形で屋根の設置が可能か検討していく。

北宇和病院については、今年度9月から病院に向かって右手の一番病院よりの障害

者用駐車スペースに太陽光パネルを設置するためにカーポートを新設する。入口までの通路は、バスや救急車が通る敷地内道路を横切る必要があるため、道路への屋根の設置は困難であることから、どのような方法があるか慎重に検討していく。



〈北宇和病院駐車場〉



〈太陽光パネル〉

↓物理的バリアフリーは、行政が施設を整備して進めることができませんが、一番大きな障害は、多目的トイレの占拠、障害者用駐車場の迷惑駐車など、意識的バリアフリーです。一人ひとりの心の中にある、差別、偏見、無関心といった見えない障壁を取り除き、お互いに理解し、尊重しあう「心のバリアフリー」は、内閣府も教育、啓蒙活動を進めていますが、大変難しく最後のバリア（障壁）とも呼ばれます。

突然の事故、病気になることも、また、誰もが高齢者になります。特定の人のことではありません。一人ひとりが、立ち止まり、配慮して困っている人を見れば、思いやりの心で「大丈夫ですか」、「お手伝いしましょうか」と声をかける少しの勇気で心のバリアフリーが広がり、真の心豊かな鬼北町として前へ進み、共生社会を実現することができると思います。





ながお けいた
長尾 慶太

近永駅周辺賑わい創出プロジェクト

問 近永駅周辺賑わい創出プロジェクトは、町民

全体の意見や合意を十分に反映した事業と言えるのか。

答 令和3年度に実施したアンケートは、町民全体の総意を確認するためのものではなく、駅周辺整備に関する意見を把握するための参考資料として実施したものである。本事業は、第二次鬼北町長期総合計画に基づく施策として位置づけており、ワークショップや他地域の事例なども踏まえながら、段階的に検討を進めてきた。今後も事業内容については、必要に応じて説明や情報発信に努めていく。

問 赤字が続く予土線の将来が不透明な中で、駅周辺整備を進めることの妥当性や費用対効果をどのように考えているのか。

答 予土線は町にとって重要な公共交通であり、その存続に向けて利用促進を図ることが必要である。近永駅周辺の賑わい創出は、駅の利用増加や交流人口の拡大につながる取組の一つとして位置づけている。費用対効果については、事業の進捗状況や設定した成果指標をもとに、最終年度に検証を行い、その結果を踏まえて、必要に応じて事業内容の見直しや改善を行う考えである。

下水道使用料と子育て世帯への配慮

問 子育て世帯から、下水道使用料の負担が重いとの声があるが、町として軽減策を講じる考えはないのか。

答 下水道事業は独立採算を基本としており、維持管理費や将来の施設更新費用を安定的に確保する必要がある。このため、特定の世帯のみを対象とした使用料の減免は、他の利用者との公平性の観点からも難しいと考えている。

草刈り活動に関する支援

問 子育て世帯への支援の必要性は十分認識している。下水道使用料の減免という形ではなく、一般会計による支援や他の施策との連携について、今後の検討課題としていく。

答 子育て世帯への支援の必要性は十分認識している。下水道使用料の減免という形ではなく、一般会計による支援や他の施策との連携について、今後の検討課題としていく。

移住・定住と空き家対策

困難である。

【結論】 空き家改修に伴う課題は把握しており、今後の相談事例や国・県の制度動向を踏まえながら、必要な対応を検討していく。



〈まちの駅・近永ふれあい館（仮称）構想イメージ〉



ひょうどう 兵頭 みのる 稔

水道事業

問 令和5年度の資産減耗費が2千2百万円あるが、その訳は。

答 固定資産が経年変化により資産本来の使用に耐えられないから減額削除した。

問 実際に価値のあるものがゼロになるという考え方について問う。

答 固定資産台帳上、減価償却が終了しても5%が台帳に残っている。

問 水道事業決算書の工事金額と広報に記載されている金額の違いを問う。

答 広報に記載してある金額は当初契約金額であり、決算書は最終契約額を記載しているため違いが生じる。

町債の交付税措置

問 令和7年度区長、組長会の資料、町債120億円のうち交付税措置90億円について、毎年の措置される金額はいくらか。

答 元利償還金の状況により、7億〜10億円ほどの間を推移する見込みとなっている。

問 地方交付税に合わせて合算して入ってくるが、県民一人当たりでは大体平均で44万円となっている。町の38億7900万円の中に含まれているか。

答 鬼北町は、住民一人当たりの額、45万4千円の数字が出ている。

三角ぼうしの改修

問 社長から、列車の三角ぼうし駅の設置の要望があったと聞いているが、その時の対応について問う。

答 広見森の三角ぼうしからJRに対し、駅設置の実現可能性を口頭確認したところ、工事をはじめ諸条件を考慮すると設置は困難であると回答を得ている。

再 町が関知するどのようなのか。

答 JRに新駅の可能性について問い合わせた結果、新駅、ホームだけでも整備費用が非常に高額となり、その投資に見合う採算性の確保が必要であると回答があった。町としてはなかなか難しいというイメージである。

再 元森林組合の跡地には建物が残っているが、解体の費用は考えているか。

答 設計段階に入る前の前提条件を検討しており、費用の算定まで至っていない。

日吉地区の公共施設の活用

問 みどり保育所、保健センター2階の活用について、老後の住まいの確保として、地方創生交付金で補助があるシェアハウス整備推進計画を活用することは考えられないか。

答 政府方針で想定されているものは、介護施設や障害者グループホームを併設し、入居者は介護サービスや施設運営の手伝いも可能とするもので、活用は難しいと考える。

再 整備推進計画は6月に答申が出たので、町としてもこう言ったことには積極的にやっていたら、現在困っている人のためにシェアハウスをつくる考えはないか。

答 興味深いとは思いますが、もう少し時間を頂きたい。

問 日吉夢産地が管理しているふれあい農村コテージをライダーハウスに改良して活用する考えはないか。

答 施設全体の利用方法を見直す必要があると認識しており、持続可能な活用方法を検討したいと考えている。

水道事業資産減耗費

再 資産の種類としての機械装置、工具機械備品の耐用年数は、8年から20年と言われている。同じ機械であっても20年で取り替えるものがあり、40年まで使っているものを替えるものがあるが、その違いを問う。

答 なぜ、違いがあるかは、耐用年数が20年のものでも、それを修理して使用している。



いまじょう 今城 喜久生

広見森の三角ぼうしの大改修

問

建物の改修の規模は。施設の老朽化や利用者のニーズの変化や多様化に対応し、施設全体の改修を考

問

えている。森林組合の跡地の活用は。駐車場用地と考えている。

問

鬼北町の人口は減り、高齢者の割合が増える。この先の利用者や売り上げの増加は見込めるか。

答 町内外からの利用客や売り上げが増加するような改修を行いたい。

問

費用対効果は。費用対効果だけでなく住民や利用者の利便性や防災面や観光面の寄与度、併せ

て他の観光施設との連携などの波及効果も含め中長期的な視点で効果を分析する。

北宇和高校北辰寮が令和4年から運営を開始。令和6年度の北辰寮に係る決算

問

この寮の建設費は。用地取得費・設計及び建築費等合わせて、3億1800万円、工事費のうち2億6490万円は7割が交付税として還元される合併特例債を財源としている。

問

ランニングコストは。令和6年度は固定費と変動費を合わせて3978万円である。

問

利用料など歳入は。寮費665万4000円、特別交付金2955万4000円、合計3620万8000円となっている。

問

波及効果や無形効果は。北宇和高校志願率が上がった。

学科	R4年度	R7年度
普通科	0.59倍	0.80倍
食品科	0.9倍	1.0倍

文化財の保守管理

問

井谷家に関わる文化財は5件に上り、2012年に有形文化財に登録されたところ。今では住宅主屋は雨漏れのため朽ち、修復も難しい状況と見受けられる。ここまでに至ったのはなぜか、合わせて文化財に係る町の立ち位置を聞きたい。

答 H22年に文化財候補になりH24年に国登録文化財になった。H27年に譲渡の申し出を受け、H29年に町が取得した。この時点で老朽化は進んでおり、本格的な保存補修が必要である事は明らかであり、活用計画を策定した。保存に向け課題を解決しながら進んで行く。

町が所有者となった文化財は、保存・活用の主体として責任感を持ち、計画的な取組が求められると認識している。

サテライトオフィスPO-INNの運営状況

問

当オフィスの利用率および収支の状況は。

答 過去3年間では利用件数12件、平均利用期間は6か月以上となる。収入は施設利用料130万円、支出の経常経費は390万円。令和7年度の収支は、利用件数4件利用料110万円、経常経費120万円を見込んでいます。サテライトオフィスに町外から入ってこられるような状況をつくりたいという事で始めた。これは収支が均衡するようなものではない。



〈鬼北町文化の丘・明星ヶ丘施設〉



いのうえ ひろし
井上 博

議員報酬6月分の2度の重複振込み

問 何が原因で重複入金(振込み)になったのか。

答 出納室から口座振込みデータを振込処理実施機関(JAえひめ南情報総合センター)への送信する際、担当者がデータに誤りがあることに気づきデータを中断しましたが、正常データと重複して処理したものである。

町有地の管理及び地籍図

問 町有地の管理はどのようにされているのか。

答 行政財産につきましては、各所管課において適正に管理

するように指示している。

問 現在の地籍図は、一般住民がみても現状と境界等がわかりづらいので、改良していく考えはないか。

答 地籍図には一筆ごとの土地の境界と地番が記載されている。国土調査の成果が基となっている。町独自の改良はできないものと考えている。

町内各集会所のトイレの水洗化

問 町内の集会所は何軒あるのか。

答 町内集会所は111施設ある。

問 集会所で水洗化になっているのは、何軒あるのか。

答 浄化槽による水洗化にされている施設は、35施設であり、水洗化率は31%である。

町営住宅

問 町営住宅の管理は、どのようになっているのか。

答 町営住宅の管理については、町営住宅管理条例第23条において、入居者は周辺の環境を乱し、または他に迷惑を及ぼす行為をしてはならないと規定している。このような場合は、住宅の明渡し請求ができるようになっていく。

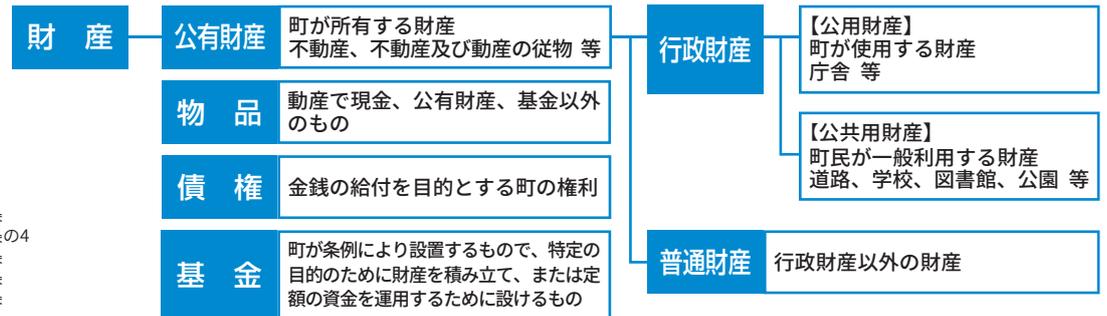
再 高齢の方や体の不自由な方であれば自分でできないことがあると思う。その方に対してどのように指導しているか。

答 毎年3月の家賃決定通知送付時に入居者の義務として管理をお願いし、できないのであれば、身内、知人、業者に依頼していただくようお願いしている。

地方公共団体の財産分類について

1. 財産の種類

《関連法令》
地方自治法第238条
地方自治法第238条の4
地方自治法第239条
地方自治法第240条
地方自治法第241条



2. 財産の管理と処分

- ① 行政財産 町において、公用又は公共用に供した(供することを決定した)財産です。一部の場合を除き、原則貸し付け、交換、売り払い、譲与、出資の目的とすること、私権を設定すること、信託することができず、これに違反すると行為は無効となります。
- ② 普通財産 貸し付け、交換、売り払い、譲与、出資の目的とすること、私権を設定すること、信託することができます。



なかがま さだのり
中山 定則

鬼北町のスポーツ振興

問 鬼北町においてもスポーツ推進計画を策定して、総合的にスポーツ振興を図り、地域で活発に運動・スポーツを楽しむことができ

るスポーツによるまちづくりを進めていく考えはないか。

答 本町では、第二次鬼北町長期総合計画の中に生涯学習・生涯スポーツの充実を盛り込んでおり、この計画をもってスポーツ基本法第10条に定めるその地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めていると解している。教育委員会としては、今後も地域で気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりを継続し、自主的な活動を支援してまいりたいと考えている。

↓ 今回の一般質問は、今以上に計画的にスポーツ振興を図り、スポーツによるまちづくりを推進することが、地域の活性化につながると考え行いました。

キホカカード

問 令和5年12月1日から運転免許証を持っていない65歳以上の方を対象にキホカカードを使ってバス・タクシーの運賃割引事業を実施しているが、計画どおり事業が進んでいるか。

答 65歳以上の方で割引対象となるキホカカード保有者数は492人、保有率12%、4月から10月までにおける運賃割引事業利用者のうち、バス割引利用者は、延べ2341人、割引にかかる支援金額は129万6千円であり、タクシー割引利用者は、延べ2255人、割引にかかる支援金額は278万1千円となっている。

問

キホカカードは、町内商工会の加盟店で利用ができ、地域通貨によるだんだんシールに代わる新たなポイント事業となっている。令和7年10月1日現在、チャージ・支払い可能店22店、支払可能店13店であるが、今後、増える見込みか。

答 現在、キホカの利用に向け準備をいただいている店舗、今後導入に向け検討中の店舗等もあると聞いているところである。

再

18歳以上の方でどのくらいキホカカードを保有しているか。

答 11月末で39.9%の方が保有している。

問

今後、ボランティア活動、イベントへの参加などどのような事業に行政ポイントの付与を考えているか。

答 今年度の行政ポイント付与事業につきましては、町バス利用ポイントや防災士資格取得ポイント、健診ポイントやデイサービス利用ポイントなど、行政サービスの促進に

おける町民活動等に対して行政ポイント付与事業を展開しているところでありますが、現時点において、行政ポイント付与の対象とする新たなメニュー等の検討には着手をしておらず、今後、来年度における当初予算編成におきまして、今年度におけるポイント実績や事業状況、各担当課における要望や提案等も聞く中、新たな行政ポイント付与の対象とする事業等の検討、併せて、財源等の考え方についても整理をしていきたいと考えている。

↓ 今回の一般質問は、キホカカードの認知度を高めるために行いました。



〈KIHOCAカード〉



入田 伸介

大規模災害発生時の対策

大規模災害発生時、指定避難所の酷暑、厳冬対策は取られているか。

暑さ対策としては扇風機やポータブルエアコン等を整備し、寒さ対策としては毛布、防寒シート、石油ストーブやポータブルエアコン等により対応している。

指定避難場所にエアコンを設置する計画はないか。

施設によってはポータブルエアコンや扇風機では対応しきれない場合もあるので災害協定に基いて資機材のリース先からの物資の供給をお願いする。一方で避難者自身も

自助の一環として暑さ対策グッズ、例えば冷却シートとか冷感の肌に着ける物等を用意したい。

指定避難所は学校施設でもあり、また普段から多くの住民の皆さんが利用している。扇風機を回しても熱い空気が回るだけでスポーツをするにしてもかなり劣悪な環境である。この点も含めて対応願う。

町営住宅

町営住宅入居者のうち収入超過者、高額所得者への対応について。

収入超過者には特定公営賃貸住宅への移転支援をあっせんしており、愛治地区に12戸、日吉地区に10戸整備している。

それらの空室状況は。愛治地区は12戸のうち9戸が埋まっており、日吉

地区はファミリー向けが5戸あるが満室となっている。

特公賃住宅が増やせないのであれば空き家対策で対応して頂ければと思うが、現状の鬼北町空き家活用移住定住支援事業における住宅改修に係る補助金は物足りないと感じる。同支援事業の中で町内の空き家を町が借り上げて整備したのち希望者に

貸し出す「再生物件活用事業」があるがこちらの方が効果的と思う。周知は十分か。

年に2、3回町内全域を対象にサブリース物件として空き家をお貸し頂ける方を募集している。町にお貸し頂ければ10年後にはある程度改修がなされた形で空き家がご自身の手元に返ってくるといったメリットの部分もしっかりとアピールして周知に努めていく。

〈再生物件活用事業〉 鬼北町移住定住促進空き家活用住宅事業

- 空き家活用住宅とは

町への移住定住促進と空き家を地域資源として有効活用するため、町が空き家を借上げ、改修し入居希望者に最長10年間貸し付ける事業です。
- 入居希望者の資格

自ら居住するために空き家活用住宅を必要とする方で、下記のいずれにも該当する方

 - (1) 町外から転入して鬼北町に居住しようとしている方又は鬼北町地域おこし協力隊に委嘱された方
 - (2) 鬼北町に継続して5年以上居住する意思がある方
 - (3) 本人及び同一世帯に属する者が町税等を滞納していない方
 - (4) 利用しようとする方又は現に同居し、若しくは同居しようとする者が暴力団員ではない方
 - (5) 所属企業の転勤及び所属企業と関連のある企業への赴任等の事由による一時的な転入者でない方
- お問い合わせ：企画振興課



山本 博士

新規事業改質リグニン

問 この事業に関して、鬼北町の持ち出しはゼロ円であると聞いていたが、間違いないのか。

答 施設用地の造成や建屋整備に係る全体事業費は、約20億円を見込んでいる。国の補助金は2分の1、残りの2分の1を起債、過疎対策事業債を借入れする。借入額約10億のうち3割の約3億円が町の持ち出しとなる。また、施設整備後の運営については、指定管理者制度により、年間500万円を上限に運営管理経費を予算計上する。

再 今回、用地を借地として行なうようになったが、年間どれくらいの経費が

かかるのか。また、当初、買収としていたのが、なぜ借地になったのか。

答 借地料については、株式会社アドバンテックが負担する。借地に変わった経緯は、上に公の施設を建て、下の土地が民間企業であるということと、農地転用の関係で県の方から指導があり、企業と相談の上借地となった。

問 資金の流れはどうなっているのか。

答 本事業の施設建設については、2つの国の補助事業を活用している。一つ目は、農林水産省の中小企業イノベーション創出推進事業、21億8500万円。この補助金は、民間企業が直接採択を受け実施する。改質リグニンの製造設備が補助対象である。二つ目は、第二世代交付金で、事業費は19億9984万6000円。この交付金は、用地造成、施設建屋、木材加工設備、太陽光発電システム及び蓄電池設

備などを整備する。

問 株式会社アドバンテックとの契約はどのようなになっているのか。

答 本事業はPFI方式で実施するため、町が契約を締結する相手は、特別目的会社となる。株式会社アドバンテックとは森林資源を活用した地域循環型産業創出事業に関する協定書の締結に向けて協議を進めている。

再 アドバンテックとは、協定書で進めているとのことですが、途中離脱にならないような工夫はされているのか。

答 この改質リグニン事業については、国のほうでも後押しをしていただいております。林野庁も鬼北町に来ていただいて、鬼北町が民間企業とこの事業を推進できるように、後押しをしていただいております。間違いなく、進行できると感じている。

問 鬼北町において、どれほどの経済効果を見込

んでいるのか。

答 施設整備段階においては、地元の工事関係者や資材調達に対する需要が発生する。また、改質リグニン工場の稼働後は、雇用創出、移住、定住の促進が見込まれる。

林業面においても、間伐材や低質材の利用の拡大により、林業従事者の所得の向上や雇用創出といった効果、また、この改質リグニン事業は革新的な技術を有するものであり、全国の自治体、林業事業者など注目を集め、マスコミ等からの関心も見込まれることから、視察を通じた交流人口の増加や、本町の情報発信の機会拡大にもつながることを期待している。

鬼北町森林資源
活用事業
実施方針





末廣 啓

成川観光施設の現状

問 リニューアルオープンから一年余り経過した現在の費用対効果は。

答 利用者数は、概ね堅調に推移しリピート率も向上しているが、運営経費も膨らんでおり、単年度収支としての赤字化にはもう少し時間を要する。

再 当初、訪日客も視野に入れていたが、どれほどの利用があったか。

答 数人程度と聞いている。今後は海外からのインバウンド事業等も引き込んでいきたい。

再 訪日客が少ない中、国内の富裕層が多く訪れたということか。

答 アップパー層を中心に、現在、利用につなげている。

再 ロッジの稼働率は。

答 月平均18%、8月は40%。人件費等も考慮して、指定管理者が稼働率を抑える形で運営している。

再 もっと大々的にPRすれば利用率も上がってくるのでは。

答 指定管理者としては、口コミやリピート率の向上を目指し、町としても、もっと大きくPRを図っていきたい。

問 現在の指定管理者になって、利用者数に変化は。

答 令和3年度からは、年間2万人から3万人の間で推移している。

問 施設の利用対象者のターゲットは。

答 家族連れや高齢の旅行者、アウトドア志向の方など、県内外の幅広い利用を対象としている。

再 レストランには、コーヒーやうどんなどの軽食はないが、利用者のことを考えると、もう少し配慮すべきではないか。

答 現状を確認して、指定管理会社側と相談する。

再 高月温泉は、どれほどの利用客があるか。

答 令和7年は、11月のみで2300人、4月から11月までの合計は、1万7231人となっている。

問 現在の指定管理者は、経営が思わしくない場合でも撤退することはないか。

答 指定管理期間を、令和13年3月31日までの10年間とする旨、基本協定書により締結している。

学校給食

問 食物アレルギー対象の児童・生徒は町内の小中学校に何人いるか。

答 広見地区に10名、日吉地区に1名の合計11名となっている。

問 アレルギー体質のチェックは、いつ行っているか。

答 小学校入学前に保護者に食物アレルギー調査票を書面で提出いただいた上で、聞き取り調査を実施している。

問 食物アレルギーに対応した施設はないか。

答 現行施設への追加設置は、スペースの問題などから極めて難しい。将来的に建て替え計画を策定する際に、最重要事項の一つとして検討したい。

再 給食センターの改築は、予定されているか。

答 現時点で、改築の計画はない。

問 調理場の清掃について。

答 毎日の調理前後に洗浄・消毒作業を実施している。8月と3月の年2回、専門業者により実施している。

新規就農者の支援策

問 現在の認定農業者の人数は。

答 男性55人、女性6人の計61人を認定している。

問 新規に農業を始めようとする者に対しての支援策は。

答 新規就農者の育成を目的に、補助金付きの農業研修制度を設けており、研修期間は1年間から2年間である。研修終了後に就農する際には、農業機械購入や施設整備のリース事業に対し、300万円までの補助を行い、円滑な就農支援をしている。他に、経営発展支援事業や就農準備資金及び経営開始資金、青年等就農資金などの支援制度がある。

問 新規就農者に対して、トラクターや田植え機など一連の機械を貸し出すことはできないか。

答 機械を共同で使用する場合、不適切な運転や使用方法による故障リスクが懸念され、機械操作の習熟度が十分でないことから事故リスクが高く、さらに機械の運搬、維持管理、定期的なメンテナンス等、運用面の課題が多い。現段階では農業機械リース事業の導入は困難である。

議会活動報告

第1回議員研修会

令和7年8月8日、松山市で愛媛県町村議会議長会主催の令和7年度第1回町議会議員研修会が開催された。

今回の研修は、まず議会が行うべき予算・決算審議を一般社団法人地方公共団体政策支援機構首席研究員の渡辺太樹氏、次に自治体議員のコンプライアンスを弁護士、帖佐直美氏の二つの講演があった。

一つ目の講演は、予算・決算審議において本来の議会がやるべきことは、住みやすくなった、住み続けたい、戻ってきたかと思えるまちにするなどの目的は明確であったか、そのための手段としての政策予算配分に整合性は取れているか、政策の成果、決算は想定どおりだったのかを検証することである。そのために重要な財政を捉える三つの着眼点、一つ目は構造を知る、二つ目は視点を定める、三つ目は問いを立てるとの説明があった。三つ目の問いを立てるとの説明は、予算の目的は何か、予算をつけた成果は、それは達成したのか、成果とコストは見合っているか、それだけのコストをかけるべきか、施策を続ける根拠は、変えなくていいのか、やめなくていいのか、もっとやっ

たほうがいいのかであった。

当議会での予算審議、決算審査を改善するに当たって活用すべき内容であった。

二つ目の講演は、自治体議員のコンプライアンスの演題であった。

まず、議員に求められるコンプライアンスは、選挙で選ばれて公職に就いたということは、良識の人であると住民が認めた人だということ。選ばれた人、良識の人としての自覚、住民の規範として行動することが期待されている。法令を守ることはもちろん、社会人として道徳や倫理観も大切な指針となる。

次に、職場での注意点、議場の外での注意点、ハラスメントについての説明があった。議場での注意点は、地方自治法第132条、普通地方公共団体の議会の会議または委員会においては、議員は無礼な言葉を使用し、または他人の私生活にわたる言論をしてはならない。日本国憲法第51条、国会議員は議院で行った演説、討論または表決について院外で責任を問われない。ところが、地方議会については免責特権を憲法上保障していると解すべき根拠はないとの最高裁の判決が出ている、との内容であった。

議場の外での

注意点の講演は、著作権法、プライバシーバシール権、肖像権、SNSを利用する際に気をつけるべきことの内容であった。

ハラスメントについての講演は、ハラスメントは優越した地位や立場を利用した嫌がらせで相手を傷つけるだけではなく、議員自身、ひいては議会全体の社会的信用を大きく損ねる行為であるとの内容であった。それぞれの問題に例を挙げて説明をされた。

議員は常に町民に見られているということを強く意識し、公職にある者として、常に高い倫理観と責任感を持って行動すべきだということを改めて認識する必要があると感じた。

二つの公演とも、今後の議会活動に生かせる有意義な研修であった。

《総務産業建設常任委員長 井上 博》



議会活動報告

町有施設視察研修を終えて

令和7年9月18日、鬼北町議会議員全12名による町有施設の視察を行った。

視察した施設は、教育分野、農業分野、加工施設、観光分野と多岐にわたり、全13施設を約1日かけて巡回し、各施設において担当課長や担当者による詳しい説明を受けた。特に印象に残っている施設について概略を報告します。

まず初めに訪れたのは近永地区に新たに建設された「多世代交流施設」である。本施設は県立北宇和高等学校の2番目の寮であると同時に、地元住民をはじめ一般の方も利用可能な交流施設である。建設を担当した設計士の話しによると、こちらの建物は建築基準

では第2類に分類され、耐震性能は第1類の1.25倍、病院レベルの基準に匹敵すること、災害発生時は地域の防災拠点としても利用できる。また、内装には北宇和高校の学校林で伐採された杉の木をふんだんに使用し、随所に十分な自然採光が採用されており、居心地の良い居住空間が演出されていた。特に感銘を受けたのが寮生に対する心遣いである。この新しい寮には肩までゆつくり浸れる浴槽を備えた大浴場が男女それぞれ完備されていま

すが、シャワーは勿論のこと一人用のユニットバス1基も整備されており、

個々人のプライバシーにもきめ細かな配慮が窺われた。その他、入寮してくる寮生の男女の比に

応じて、つながっている男性棟と女性棟を隔てる仕切りが軽微な工事で移設可能であり、全28ある部屋数の男女割合をそこで調整する機能も備えている。入寮してくる高校生を大事にしたいという町の姿勢、気持ち十分伝わる施設に思われた。

その後、学校給食センター、鬼北町農業公社、きじ加工施設等を巡回し、日吉地区の文化の里「明星が丘」の視察で午前中を終えた。同施設では先頃就任された地域づくり協力隊の方から、施設全体の今後の活用ビジョンやこの地を拠点とした地域再生構想の説明を受けた。

昼食後、視察した広見森の三角ぼうしでは、直近5ヶ年の利用実績を売上高と来客数の月毎のデータで説明を受け、今後の進むべき方向性を幅広く検



〈ネイチャーホテル・ナルカワ離れ棟客室（成川渓谷簡易宿泊施設）〉

討する必要性を感じた。鬼北総合公園、B&G海洋センター、奈良山等妙寺歴史交流館を視察したのち成川渓谷休養センターの一連の施設を巡回し、日程を終えた。いずれの施設も町民の方々の暮らしと密接につながっている。来るべき時代に応じた今後の活用方法も含めて、住民の皆様の声にアンテナを張り続けていくことが重要であると改めて感じた。

《鬼北町議会議員 入田 伸介》



〈学校給食センター〉

議会活動報告

議会広報常任委員会視察研修

議会広報常任委員会では、11月4日（火）・5日（水）の2日間、広島県神石高原町を訪問し、議会広報の先進的な取組について視察研修を行った。

神石高原町の議会だよりは、「住民の声・意見を反映する」ことを編集の基本方針に掲げ、読み手の立場に立った分かりやすい広報づくりが徹底されている。見出しや写真だけで内容が伝わる構成とし、各種団体との懇談会や住民インタビューを積極的に行うことで、多くの町民の声を紙面に反映している点特徴的である。また、難解な行政用語や専門用語を避け、中学生でも理解できる平易な文章表現を心がけている。

表紙写真はプロレベルの高解像度写真を使用し、強いインパクトと訴求力を持たせているほか、決算等の内容についても数字だけでなく表やグラフを用いて視覚的な理解促進が図られている。さらに、議会での議論にとどまらず、その後の調査や結果を追跡リポートとして掲載している点は、議会活動の「その後」を町民に伝える有効な手法



であると感じた。

加えて、議会クイズを実施し、参加型の企画として町民の意見や感想を収集している点や、A4より大きい判型で手に取りやすく目立つ紙面構成も大いに参考となった。

今回の視察で得た知見を、今後の議会広報の充実に生かしていきたい。

《鬼北町議会議員 長尾 慶太》

鬼北町商工会との懇談会

令和7年11月26日、鬼北町商工会で鬼北町商工会との懇談会を行った。

まず、芝議長が鬼北町議会の概要を説明し、金繁商工会事務局長が鬼北町商工会の組織・活動について説明された。その後、JR近永駅周辺の再開発、町内の商工業などについて、打ち解けて意見を交換した。

JR近永駅周辺の再開発

○近永は昔にくらべて、寂れているので、賑わいを出すのは、大変なことだと思いが、既に中心が国道沿い移っている。静かな住宅地になってくれた方がいいとの意見もある。

○近永駅を建て替えるなら費用対効果を考えていただきたい。

○商工会で11月3日鬼北映画祭を行い、

マルシェも開催し、北高の寮生がクッキーやカルミンの販売をしてくれた。今後も北高生との交流を深めていきたい。

○北高生を巻き込みながら夢物語だが、馬車が定期的に走る町というのも良いのではないか。

○鬼北町には清流がある。もっと川と自然を生かして観光を展開することが、予土線につながると思う。

○にぎわい創出プロジェクトについては、商工会の経営指導員がワームスに話し合いには行っているが、形としてどうなったかというのは、いただいていない。

町内の商工業

○事業承継については、国も県も非常に力をいれているところだが、鬼北町商工会の最重点事項として、鋭意取り組んでいる。

移住

○農家の高齢化が進んで柚子の放任園が多くある。移住に活用できないか。



今回の懇談会では、町政への貴重なご意見・ご提案をいただいた。また、鬼北町商工会についての理解を深めることができた。今後の議会活動に役立てたい。

《鬼北町議会議員 中山 定則》

◎本会議において賛否が分かれた議案

※ ○=賛成 ×=反対(賛成しない)
※ 議長は裁決に加わりません

議決日 議案番号	議案名	議決結果	長尾 慶太	入田 伸介	大川 正展	今城喜久生	兵頭 稔	中山 定則	末廣 啓	井上 博	程内 覺	松浦 司	山本 博士	芝 照雄
R7.9.19 議案57号	令和6年度鬼北町 水道事業会計決算 の認定及び剰余金 の処分について	原案可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	議長
R7.12.12 議案75号	令和7年度鬼北町 一般会計補正予算 (第5号)について	原案可決	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	議長



本号の表紙

本号の表紙は、多世代交流施設の完成写真です。新たな施設が整備されることは、町にとって大きな前進である一方、その意義は今後の運営や活用によって問われていきます。

特集では、北宇和高校の高校魅力化プロジェクトを取り上げ、現場の声を通じて、その現状を多角的に紹介しました。成果とともに、見えてきた課題や不安にも目を向けています。施設も施策も、「できたかどうか」ではなく「どう生かすか」。

本号が、町の未来を考える一助となれば幸いです。



議会広報常任委員会

委員長 兵頭 稔
副委員長 今城喜久生
委員 入田 伸介
委員 長尾 慶太

議会広報常任委員会委員長 兵頭 稔

取材にご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございます。そして、読者の皆さん、どうか最後まで読んでいただき感想をお寄せいただけましたら幸いです。

編集後記

第9号は、広島県神石高原町に視察研修で勉強した読み手の立場に立った分かりやすい議会だよりを目標に作成しました。